

四国 88 箇所歩き遍路第 9 回 4 日目 (以下 2 ページの写真をクリックすると拡大)

第 9 回 4 日目は百々家から 7 キロの 83 番一宮寺、14 キロ先の 84 番屋島寺、それぞれが 6 キロ間の 85 番八栗寺と栄荘まで。33 キロの長丁場になります。

百々家というのはおかしな旅館で、前日は地元の宴会らしく騒々しい夜だったのに、早朝 6 時に出発する時には旅館の人は誰もいません。仕方なく宿賃をカウンターのノートに挟んで出かけることになりました。踏み倒す人も出てきそうです。



朝 6 時は駅前というのにまだ暗く、道に迷いながら遍路道を進みましたが、お遍路接待所を見つけて安堵しました。接待所は電気が点いていたけれど、鍵がかかっていて不在。

一宮寺到着は 8 時。境内には厄除け弘法大師が立っていて、鈴をぶら下げた傘を差していました。このような傘つきの地蔵はチョッと珍しい。

一宮寺を出て 3 時間半、屋島が見えてきました。280m の山の上に屋島寺があります。ここから 30 分で参道に着きます。



参道には加持水と不喰梨(くわずのなし)が並んでいます。加持水は弘法大師が仏の加護保持を祈祷した水で、石碑の字は大師直筆といわれています。

不喰梨の伝説。弘法大師が屋島で梨を所望したとき、持ち主が「美味そうに見えても食べられない不喰の梨です」と嘘をいい、食べさせなかった。この梨は石のように硬くなって本当に食べられなくなってしまった。



屋島には三つの門があって、仁王門、山門(四天門)を通ると正面が本堂。山門では猫が迎えてくれました。

本堂からは夫婦狸、大師堂を経て東大門から八栗寺に向かいます。バスツアーでは逆に東大門から入り、仁王門、山門は通りません。



山道を下り、車道に出ると壇の浦の街並みが見下ろせます。屋島壇の浦の古戦場です。対岸は庵治半島、中央の山は五剣山（八栗山）です。男の顔（額、鼻、顎）が仰向いている（寝ている）ように見えます。

阿波勝浦（小松島港）に上陸した義経は徳島の立江寺から恩山寺に向かう遍路道を通り（第2回区切り打ち2日目参照）勝浦町で平家方の田口（桜庭）良遠の館を襲って滅ぼ

し北上しました。今の県道1号線（讃岐街道）を通過して藍住町付近で吉野川を渡り、屋島に向かったとあります。

1号線は3番金倉寺の横を通過しており、私は義経が遍路道で大窪寺、長尾寺、志度寺と進んで屋島に来たと想像しています。

奇襲を受けた平家は屋島の内裏から壇の浦浜沖に逃れ、ここで那須与一が登場します。

平家は安徳天皇を奉じて壇の浦の入江に行宮を建て、陣営を作っています。今はこの場所に安徳天皇社が残されています。



壇の浦を過ぎると再び山登りになります。最初に迎えてくれるのが八栗寺のお迎え大師。右後方に屋島が眺められます。山門(二天門)の奥には本堂の屋根越しに紅葉が美しい。

八栗寺は21番太龍寺、66番雲辺寺と同様にケーブルカーで寺まで登れます。もちろん歩き遍路は利用しませんが。

八栗寺から志度寺までは7キロ、500m手前の栄荘が本日の宿です。途中の志度町には平賀源内の旧邸と夫婦柏（昇竜の柏とも言います）の地蔵寺があります。

栄荘に着いたのは5時を過ぎていて、志度寺参拝は明日になります。

第9回 4日目の一言日記

第83番 神毫山 一宮寺(いちのみやじ)



大宝年間に創建され、大宝院と言ったが、讃岐一宮の田村神社が建立され、一宮寺になった。地獄に通じるという小さな石の祠がある。

第84番 南面山 屋島寺(やしまじ)



大師が一夜で本堂を建立。山岳仏教の霊場。本堂横の養山明神には巨大狸の夫婦が立つ。この宝物館は近代的で立派。

第85番 五剣山 八栗寺(やくりじ)



後方の五剣山は豪雨と地震で4峰になった。山頂から八国が見えるので八国寺だったが、大師が植えた八つの栗が生長繁茂し八栗寺に。境内に天然記念物の菩提樹がある。